

〈解答〉

① 1 ウ

2 〔例〕他の練習生たちに、自分が女にも勝てないなどと思われたいようにしたい  
(33字)

3 ア

4 エ

5 イ

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

①

1 傍線①の直後に、「愉快そうに声をかけた」とあるのに注目する。

2 傍線②の二～三文後に、「練習生たちが盗み見をしているのはわかっている。健太は女にも勝てないなどと思われたら、最悪だ」とあるのに注目する。つまり、自分と友里の対戦を見ている練習生たちから、自分が女にも勝てないと思われるのが嫌で、健太は、絶対に友里に勝ちたいという気持ちになっているのである。

3

③は、二～三文前にある「健太は心の片隅ではほっとしていた」、「これ以上続けても友里に勝てるとは思えない」とあるのに注目する。自分は強いはずだという自負が完全に打ち碎かれる前にやめることができたため、二度と立ち上がれなくなるほどの惨めな気持ちを抱えるまでには至らずに済んだのである。

4 健太は、この柔道教室の中では弱くないはずの自分が、友里を相手に一度も勝てなかったのも、何が原因なのかを知りたくなり、試しにいつもの練習相手と組み合ったのである。しかし、その相手をあっさり投げることができたので、自分はいつもの「調子」であり、自分が友里に勝てなかったのは、単に友里が強かったただけだということを確認めることができたのである。

5 ア「回想場面を挿入し、健太の現在と過去とを比べる」、ウ「健太のいきさきよい負けっぷり」、エ「健太と友里の視点を入れかえつつ話を進める」の部分が適当ではない。